

成分名	イソ吉草酸イソアミル
英文名	Isoamyl Isovalerate
CAS No.	659-70-1
収載公定書	薬添規 食添
A TOXNET DATABASE へのリンク	https://chem.nlm.nih.gov/chemidplus/rn/659-70-1

投与経路	用途
歯科外用及び口中用	着香剤・香料

1. 単回投与毒性

動物種	投与経路	LD ₅₀	文献
ラット	経口	5 g/kg	Moreno, 1976 ¹⁾
ウサギ	経口	81mmol/kg	Munch, 1972 ¹⁾
ウサギ	経皮	5 g/kg	Moreno, 1976 ¹⁾

2. 遺伝毒性

(WHO Food Additive Series No.42) ²⁾

試験	試験系	濃度	結果	文献
復帰突然変異	サルモネラ菌 TA97、TA102	直接法及び代謝活性化法: 0.01-1 mg/plate	陰性	藤田ら, 1994 ²⁾

3. 局所刺激性

イソ吉草酸イソアミル原液をウサギの健常及び損傷皮膚に 24 時間閉塞貼付した結果、中等度の刺激性が認められた。Monero, 1976 ¹⁾

以下については該当文献なし

4. 反復投与毒性

5. 癌原性

6. 生殖発生毒性

7. その他の毒性

8. ヒトにおける知見

① 被験者にイソ吉草酸イソアミルを流動パラフィンで 2%濃度で 48 時間閉塞パッチ貼付を行った結果、刺激性は認められなかった。Epstein, 1976 ¹⁾

② 被験者 30 名にイソ吉草酸イソアミルを流動パラフィンで 2%濃度でマキシミゼーション試験を実

施した結果、感作性は認められなかった。Kligman, 1966, Klingman & Epstein, 1975¹⁾

引用文献

- 1) Isoamyl isovalerate Food Cosmetics Toxicol. 1978; 16: 789
- 2) 藤田 博, 青木直人, 佐々木美枝子 Salmonella typhimurium TA97, TA102 を用いた食品添加物の変異原性試験(第 9 報) 東京衛研年報 1994: 45: 191-199

JPEC JAPAN SAFETY DATA